

「標茶町行財政改革推進計画」町民説明会

－ 議事録 －

1. 日 時 令和 8 年 5 月 21 日 (木) 午後 7 時 00 分から午後 8 時 30 分まで
2. 場 所 阿歴内公民館
3. 出席者 【参加人数】 16 人
【町役場】 町 長 佐藤 吉彦
副町長 牛崎 康人
教育長 青木 悟
企画財政課長 齊藤 正行
行財政改革推進室長 内藤 政夫
4. 会議内容
（1）開会
（2）開会あいさつ
（3）説明
（4）質疑応答
（5）閉会あいさつ
（6）閉会
5. 会議経過
（1）開会 午後 7 時 00 分
（2）開会あいさつ
次のとおり町長よりあいさつを述べた。

本日は、「標茶町行財政改革推進計画町民説明会」に、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

現在、標茶町では、人口流出や少子高齢化による過疎化の進行、それに伴う人手不足、公共施設の老朽化など、さまざまな課題を抱えております。これらの課題は収入の減少や維持経費の増加につながりますが、加えて、近年の物価高騰などもあり、町の財政を取り巻く状況は年々厳しさを増しております。

こうした中、このまま、これまでと同じ形で事務事業や財政運営を続けていくことは、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていく上で大変大きな問題であることから、令和 7 年 6 月 16 日に「標茶町行財政改革推進計画」を策定いたしました。

この計画を策定し実行していくことは、現在の町の状況や課題を町民の皆さまと共有しながら、厳しい状況を乗り越え、これからの標茶町をより良い方向へ進めていくための取り組みであります。

そして、行財政改革は、行政だけで進めるのではなく、町民の皆さまとともに考えながら進めていくことが大切であると考えております。

計画策定から2年目となる今年は、より具体的な取り組みについて、皆さまと意見を交わしながら、将来に向けた基盤づくりをしっかりと進めてまいりたいと考えております。

行財政改革という言葉を聞くと、「削減」や「見直し」といったイメージから、不安を感じられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、それは単に何かを減らしたり、なくしたりすることが目的ではありません。限られた財源の中で、本当に必要なサービスを将来にわたって維持し、次の世代につないでいくための取り組みであります。

そして、見直しによって生まれた財源を活かしながら、ふるさと標茶がこれからも「元気なまち」であり続けられるよう、将来への投資にもつなげていきたいと考えております。

本日は、なぜ今このような取り組みが必要なのか、また、標茶町の現状や今後の方向性について、できるだけ分かりやすくご説明し、皆さまから率直なご意見やご提案をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 説明

「標茶町行財政改革推進計画」の概要について町長より説明。

(4) 質疑応答

次のとおり参加者の質疑に対し回答を行った。

【プライバシー保護及び個人情報保護の観点から、個人名や固有名称は表現を変更しています。また、録音品質により聞き取りづらい部分などは最低限の補筆を施しています】

参加者①:

参加者①ですけど。

えーとまあ 5 年間まあずっとやってきたんで、まあ全体、町の財政がちょっと危機的なのはコロナが始まった頃からですね正直言って。

そのころから、まさに個人情報の中でもう人の指導できなきゃ何もできないという、今ほとんどそういう政策の中で今行ってきたって感じですよね。

そうすると、まあ私たちも確かに人口がどんどん減少している国だったり、それに加えて、まあ我々としてもまあ歩けないからは町民さんは出てないんですけど、他の地域からは町民さんが出ているわけですけど、その町民さん方がやっぱり地方財政についてきちんと検討してこなかったのではないかと。確か 3 ヶ月に一回、一回の決算というか、そういう数字面で議員さんに全て情報が出されてるんでわれわれには来ないけれども、そういうのが来てるはずなんです。

その上において、やはり必要なものが何であったか、必要でないものが何であったかということのをきちっと討議してこなかったということが、今の結果につながっているのかなと思うんです。確かにその当時今から 20 年か 30 年前、建物自体をどんどん増やしてきた。その後はやっぱり地震という問題があって、要するにその地震対策でもってかなりの金を使ってきたそれからどんどん人口が減少していく。人口が減少しているということは、要するに必要なものはやはりある程度無くしていても、これは仕方がないんじゃないかなと思うんです。

それに加えては、この広い面積ですから、全てを町だけで維持管理するというのはかなり厳しいんじゃないかと。当時はそうすると、やっぱり地方においでる公民館とか、いろんなものを見送りながら町民サービスをつくったと思うんです。これからはやっぱりその地方に町民が住んでいる以上、町民サービスをやるってわけにはいかない。人間が生きている以上はやっぱり何か形でやっていかないとけない。

これが何十年後、4,000 になるって、これもあくまでデータだからね。

これからやっぱりその新規就農でもいいし、人口が入ってこれる人がいたら、そういう人も受け入れながら、プラスにやっぱりいろんなところを取るべきかなと思いますね。じゃあ積極的にやっぱりそういう入ってくる人たちのあの窓というか入り口を広げて、やはり町の財政に貢献してくれる人をどんどん入れてくるべきではないかな、と私は思うんですけど。

それでちょっとひとつさ、あの町の中で流れている経費の削れるものっていうものがあると、まあ役場の職員って何を言うかはまあ僕も聞いたかったんですけども。

まああの車とかさ、ああいうものをさ、ある程度やっぱりそのね、削れるものは削っていった方がいいんじゃないかなって結局、結構車検代とか車台と燃

料代、これもかなりバカにならないんだよね。その辺はやっぱりちょっと見直していったのかなと思うんだよね。

すると、さっき言ったやすらぎ園の問題ですけど、やすらぎ園だって当然もう老朽化して建て直す時期に来てるはずなんだよね。

それがいつまで我慢できるのかなという感じがだと思います その辺もやっぱり財政難で財政難と言ったって、何かやらなかったら前に進んでいかないと困るんでね。

やっぱり地域に、地方というか、いろんな地域にある施設も利用価値のないものは、やっぱり売れたり売り払えたり、逆にね、誰か使ってくれそうな人がいたら、やはり提供するような方法性も考えるといいんじゃないかなと思います。それとは別の話、あの今町長がおっしゃったように、今年の秋には町長選があるんですよこれ選挙の経費って国じゃなくて地方ですよ。全て。

これ、まあ町長選と町議選と別にやってんだけど、これはやっぱりその時の選挙経費が別々にかかりますよね。この経費ってどのぐらいかかるの。

町長:

大体、1,200 万、町長選。

※ 1

参加者①:

それはいつの、今から何年とかって。

町長:

いや、今年、新年度予算で町長選挙費の経費を計上。

参加者①:

あくまでも予想を明かしているのは、確かもう何ヶ月も前なのでしょう。

今、中東の情勢もあって、資材・燃料全てが高騰してるんだけど。ね。

もしさ、町長選と町議選でやった場合について、一つの選挙ですよ。

ダブルにはならないですよ。そうするとやっぱりその辺は町長を削ることにするのか、町議を繰り上げてくるのか。どちらかを繰り上げて、現に 1,200 万を減らす方法も一つの方法としてあるのかなと思う。

それと、あと、なんか忘れたんだけどね、まあそれを含めてなんかでさ、やっぱり人口が減るっていうことになれば、土地も空いてくると。

ならば、新しい産業を呼び込んでいくことも一つの方法だと思うんだよね。それでさっきから言ってる 6,000 なんぼの人口であれだから、今、町議数は何名なの。町議さん。

これはあの、町議さんも当然減にしてくよね。

財政難の時には。最低限まで引っ張るんですよ。

どうなんですか。

※ 1 令和 8 年度当初予算 14,244,000 円

町長：

12名です。これらの結果で、議会は議会で自分たちで例えば特別委員会を設置して、議会の定数をどうするか、報酬をどうするかってことを議論して決めている経過ですので、参加者①さんからの意見は今いろいろ議員さんにわかる範囲では全部お伝えします。

参加者①：

私の考えとしては、もうこれだけ人口減ってきたんだから、7人ではちょっと町政を運営するのは難しいなと思うから、まあ最低限やっぱり10人ぐらいで収めるということが一番いいのかなと思って。

それと、やはり町議さんがもう少し町政の内容についてきちっとさ、町民さんに当然、町議さんというのは、町民から選挙もらって票をもらって当選してるわけだから、この町ばかりの責任じゃないと思うんだよね。

町議さんもきちっと地域に帰って、きちっと説明する責任というものがあるんじゃないの。

これまるで責任ないことばかり言ってるようだけど、そういうことではないでしょ。ねえ、どうなんですか。

町長：

私からはちょっとお答えしづらい内容になったので、その通りお伝えしたいと思います。

参加者①：

はい。

町長：

はい。ここにいろいろ質問があったんですけど、選挙の費用とかそれについてもですね、いろいろ単純に選挙の時期が半年くらいずれてますんで、それをどちら側がどうするとか、いろんな他の地域からもそういう意見が出てますので、それも含めてですね、皆さんの地域の皆さんから選挙にかかる費用について、こういう財政状況の中で何とか節減できるのかってことは、この議会側に意見があること、あったということでお伝えしたいと思います。

参加者①：

はい。議会説明はいいんだけど、当然今までの歴史の中でさ、弟子屈が確かさ、町長選と町長選が別だったんだ。今は一緒なんだよ。

徳永町長になってから町長時代、降りてね、降りて再度選挙をやったという過去の歴史もあるんで、全てのものはやってやれないことではないと思う。そのへんはやっぱり議員とちょっと検討しながら本当に町の財政、1,200万浮かすか浮かさないかによってかなり変わってくるんじゃないかなと思いますね。

町長:

そうですね。

先ほどの町長選の経費ですが、1,430 万、当初予算で計上されてます。ですから、町議さんはちょっと人数いますので、もう少しかかるんじゃないかと思います。

参加者①:

いや多分そうでしょう。

これだけ経費が上がってくれば、大幅に上がっていったから、もう止めようがないんだから。

今の経費、計画のときと春に比べたら、まだ上がってるんじゃないですか。止まることがないんです。大変だと思います。

町を運営するのも大変だと思うんだけどさ。我々町民も大変なんだ。いろんなものが上がってきてるからね。皆さんの懐がどんどん寂しくなって、払っていけなくなってくる。そういう時だってどうなるのかなと思って。

いや、私一人だけ聞くのはあれなんで、他にも聞いてください。

町長:

はい、ありがとうございます。

参加者②:

参加者②と言います。

町の財政の状況というのは、私たち町の広報でしか、なかなか知ることできないんですけれども、あのまあ、これは大きな赤字になるということは、ここに書かれているようにですね、他の会計への支出ですね、一般会計から。

例えば、よく聞くのは病院が大きな負担だとか、牧場が大きな負担だとか聞くんですけれども、その具体的な数字をここでは教えていただければありがたいんですけれども。

町長:

病院に関しての話でしたら、先ほど私の方から毎年ですね、病院、あの、人口の変動が特にですね、減ってきているんですけれども、前年度 7 年まで、約、当初予算ベースで赤字が 9 億 6,000 万の金額が病院会計の赤字です。

それに対して国から交付税というものが病院に入ってくるんですけれども、約 2 億 2,000 万程度、実は入ってきてます。その残りが結果的に町が赤字を補っている金額になります。

この金額が毎年、私、20 年くらい前に課長をやった時でも、赤字が約 5 億円程度あったんですね。

それに半分ぐらいが交付税が 2 億 2,3 千万とか入ってきていますので、大体半分ぐらい町が負担するというような状況だったんですが、現在はさらにそれが倍になってきているというのが最近の状況です。

これは物価高と合わせて、人件費の高騰、例えば医者を確保するためにかか

る経費が増えてきているというのが現状なんですね。

例えば、今外科の先生は、札幌から 1 週間に一回先生が替わって来ていただいているんですけども、以前は 1 年に一回先生が決まって、標茶に住んでいただいていたんですけども、その時は例えば交通費とかほとんどかからないんですね。

1 年に一回の移動のみならず、現在は毎週毎週ですと、例えば 札幌と標茶を行き来するのも経費がかかるということで、一人の先生を来ていただくために、それだけ経費がかかってきてるというのが実は現状、そうやってようやく地域の適切な医療が維持されているというのが実は現状ですね。

そういうふうにしないと、お客さんも来てもらえないという状況の中で今やっているところであります。

今、その差額の部分を何とか縮めようということで、やっぱり診療科も少し少なくするところで、こういったことも検討しながら、あるいは国に対して交付税の額をもう少し全ては唯一の公立病院ということで、そこを維持するための経費ということをもう少し増やしていくべきであるということですね そんなことも議論を今やらせていただいている状況です。

副町長:

えっとですね、いくつかあるんですけども、国保の繰り出し金は 9,900 万円、国民健康保険事業ですね、そこへの繰り出し金が 9,900 万円、それから下水道の補助金が、下水道会計の補助金が 1 億 9,400 万円、それから後期高齢者医療費用の繰り出し金が 4,500 万円、それから介護保険の繰り出し 3 億 3,800 万円で、これがやすらぎ園とか、そういった分も入ります。

それから水道事業の補助金が 3,800 万円、それから今町長からあった病院の補助金は 7 億 4,800 万円、衛生組合の負担金が 2,600 万円、そして北部消防の負担金が 3 億 3,800 万円ということで、今言った全部を合わせると、合計で 18 億 7,300 万円、他の会計等への負担金があります。

参加者②:

ちなみに、今申し上げた大きいもの、赤字負担とか負担ね。

副町長:

令和 7 年度の決算の概要なんですけれども、めん羊の部分を除いてなんです、1 億 3,900 万のマイナスになってます。

企画財政課長:

若干補足させてもらいますと、育成牧場の部分っていうのは一般会計の中にあるので、先ほど特別会計、別の会計なので、一般会計の中で、支援とか補助をしてるっていう感じじゃないんですけども。

牧場だけを一般会計の中で牧場部分を抜き出すと、今の話になってきます。

ただし、牧場の中で計算に入れているのは以前に建てた牛舎とか、そういったものは農家さんの方がわかると思うんですけど、減価償却という計算をして

収支に取ってますので、実際のお金のやり取りとはちょっと違うんですけども、その大きく投資した分について減価償却という計算をした結果、1 億 3,900 万の赤字になっているということでご理解いただきたいと思います。

参加者②:

今言われたように、病院の赤字が一般会計から一般の私たちの税金から何億超えるお金が、私ももう 20 年以上前になりますけど、この時でも 4 億超えるお金が一般会計の中から病院に応援してたって入って、その時それがそれまでかかるんだったら病院じゃなくて診療所とか、そんなことできないこととかっていったことあったからね。

そうすると、当時のちょっと力のある議員さんに何を言ってんだ、とかあったんですけども、やっぱりそういった大きな改革もね、必要じゃないかと思うんですけども、こんな中での病院のあり方を検討していくというふうに書いてあることもとにかく大変でしょうけども、やっぱりあの、頑張っってやってほしいなと思います。以上です。

町長:

病院については町民の皆さんのご理解がないとできない改革だと思っています。例えば、入院のベッド数を変えたりとか救急車で来る患者さんをどうしていったらいいのかとかですね、こういったことを一つ一つですね、皆さんに理解してもらいながら、こういう形で段階的にいきましょうとか、そういう形でないとなかなか縮小していけないのかなと思ってるので、今日はある程度こういうことを今研究してますよ、ということの一つのお話です。

外科をやめた場合の効果とか、あわせて救急外来と一緒にセットでついてくる、ということですので、例えば、診療所化にしたらどうなるのか。

診療所化にするときに、じゃあ無床にするのか。

19 床までベッドを維持することもできるんですけども、有床にするのかによって全然違うんですね。

ただ、実際にはかかる経費が変わらないんですね。

実際にそれを 19 床維持するために、それなりの看護師さんが必要ですから、意外と計算していくとあまり削減にならないという数字が実際には出てくるんですね。

だから、そういう選択はいいんですか。ということをしつかりですね、皆さんに数字をお示しながら、どういう形を選ぶのかということをしつかりやっていかなければいけないと思っております。はい。

参加者①:

ちょっといいですか。はい。

今の町営牧野についてさ、まあ何年かは赤字だったの。これ。

副町長:

先ほど企画財政課長からあったようにですね、普段、議会とかで説明してい

る数字とは違って、少し企業会計に近い形で減価償却とか、あるいは人件費も織り込んだらどうなるかっていう数字で、さっきの 1 億 3,900 万のマイナスだって言ったんですね。で、今過去の数字ってそういう処理をしていないもんですから、ちょっと何とも言えないところがあるんです。

ただ、今までは会計上で見ると、あの人件費が職員総体の中に入っているものですから、人件費を抜いて牧場の手数料収入とそれから牧場の会計の中から出している支出での照らし合わせのプラスマイナスという議論をしていたんですね。人件費は入っていなかったということで、その時代に人件費と減価償却を入れたらどうなるのかというところは、ちょっとやってみないとわからない、というふうにしか、ちょっと今説明ができないです。

※ 2

参加者①:

とりあえずこの何年かはわかつちやったからいいんだけど、そうすると料金体系っていうのも考えなかったかなと思ってね。

これだけ物価が上がってきてさ、毎回どんどんどんどん売ってるのにさ。だからその預託料がどのぐらいで、何年前のものから動いてないのかどうか。

※ 3

副町長:

預託料は、えっと、2 年か 3 年前ぐらいに一度見直しをさせてもらったはずなんです。ただ、それでも民間の施設に比べると、まだ安いというふうに言われているという理解でいます。

なので、先ほどのその、いろいろ手をつけるという中で、手数料等も見直しという項目もあって、料金収入についてもですね、同じように見直しをしていこうという、今、作業をしているところです。

参加者①:

赤字であればさ、当然料金体系を対してきちっと見直して、やっぱり早く正常化するか、それでできないのであれば、やっぱり第三セクターか何かにして、完全なる町が一部手を離すとか、ね、民間に任せるとかさ。やっぱ早い対策してこれば、そんなに無理なかったんではないかなっていう気はするんだけどね。

※ 2 独立した会計ではなく一般会計の全体の枠組みの中にあるため、人件費や減価償却を経費に含めた企業会計に近い収支シュミレーションとして算定した場合、令和 7 年度は△139,370 千円の見込みで、令和 6 年度 △187,604 千円、令和 5 年度 △174,252 千円。収支の内訳について、別添資料としてホームページに掲載。

※ 3 令和 2 年 6 月 1 日に「周年使用料 400 円」を廃止し、令和 3 年 4 月 1 日に哺育使用料「500 円」を「650 円」に改正し、放牧期使用料を若令育成群「1 頭 1 日につき 200 円」・授精妊娠群「1 頭 1 日につき 250 円」の区分けを廃止し、「1 頭 1 日につき 300 円」に改正している。

それはまああの、職員が抱える責任じゃなくて、やっぱり運営してる議員さんにもかなりの責任があると思うんですな。わかってて料金対策をさせない。

民間にも落とさない。町でいつまでも抱えてずーっと赤字だ。その赤字を町民の税金で穴埋めしていく。当然その安く預託させた人が一番儲かってるんだよな。考えてみたら、払う税金は皆さん平等でさ。

ねえ、やっぱり自分らが利益出してるからさ、収支が利益をもらえるさ。

我々もこれ今どうしてと思ってさ。やっぱりその安い料金ではないんだよね。それでもやって運営して、今の相場に合うように、合うようにして引っ張り上げてね。合わなきゃ、やっぱり 50 円でも 100 円でも上げるといふ、そういう考え方。当然、職員がいる人は職員給料とかいろいろ払って、機械とかね、いろんなもの減価償却とかしながらさ、ちょっと合うようにやっぱり十分に最低設定してくるんですね。

我々だってやってるんですから。なぜ町がね、やっぱり頭のいい議員さんが集まってるんだからさ。

そうすると、なぜそこまできちんと踏み出していけなかったのかね。

副町長：

値上げっていうことには、やっぱり勇気がいたんだと思うんですよ。

それから先輩たちから聞いていたのは、役場全体の会計の中でまかなっていた、実際のその牧場の収支以外の部分で負担をしていたっていうのは、ある意味、基幹産業への支援策として、要は補助金と同じような感じで考えてもいいんじゃないかなということで、そこは多少というか、赤字になっても、うまくやっていこうということで進めてきたというふうに理解しています。ただ、ここに来て、この行財政改革っていうのがなければ、やはり一度すべての実施について見直しをする。

その上で、さっき言ったような本格的な判断が必要なことについては、政策的な判断が出てくるのかなと思うんですけれども、いずれにしても、まずは説明もあったんですけれども、ゼロベースで見直しをするというところで、今作業しております。

参加者①：

うん。まあゼロベースはいいけど、将来的にまだこれ赤字なの目に見えてるんだけどさ。これをどうしてくれるかって、将来的に。確か決めた人も町営牧野っていう看板みたいなもんだから、え、それをどうやってやるのかとかさ。

で、赤字で別に運営できないしさ、その分倍払ってて、銀行がどんどん減少してるっていうし、税收もどんどん減ってるってことだから。

そのへんも考えて、将来的にやっぱり早い段階で判断すべきじゃないかなという気はします。

町長：

あの、僕の意見ではね、今副町長が言ったように、基幹産業を支援するためっていう感覚を持ちながら、やっていただくのが一番だと思っています。

これ、ここまで分業が進んでいる中で、やっぱり育成部門を独立させたり支援するという、そういった、今民間の部分も視野に強力にアナウンスをする中で、やはり地元の農協さんと一緒に収益化して、農協さんがどんな考え方で、例えば今後育成牧場の方向性についても協力関係になれるかとか、そこからスタートしてですね、民間の部分も研究して進めていこうかなとそのように思っています。

参加者③:

今日こんな機会を得るのは大変ありがたいなと。

町長の副町長の給与削減ね、こういう努力も非常に何か少しではあるけど、評価したいなと思って。

その中であの春ごろの新聞で、市町村の 170 なんぼの貯金のうちの 130 はあの基金取り崩さないと組めなかったという状況、まあさっきから言っているように、その交付税の削減とか、そんな中でいろんな形で物を買って経費がかかって。いろいろな非常に厳しい財政でやってもらって、もう感謝したいなと思っています。ただ、その、どうしてもその、今までね、僕はこんなに危機的状況なのかだって、確かにその貯金取り崩して底ついてきたとかいうことを考えると、そのことを考えたらまだ大変なんだろうと思うんだけど。逆にいうと町民は今までいい思いを、他町村よりしてきたんだろうなと思うんですよ。

で、この、今回示されたのが 7 年度から 11 年度までなんだけど、これ 10 年ぐらいのスパンでやったりする。これあの、項目はいっぱい載ってんだけど、そういうものごとのタイムスケジュールが載ってないんで、例えばその職員の問題にしても、あの、増やすか減らすかわかんないです。

人口に合わせて、いろんなものに照らし合わせながら、職員の待遇をどうするのかと、そういうタイムスケジュールが一つも載ってないので、この項目取り上げるのは簡単なんだけど、それを進めるために一番大事なそのタイムスケジュール、そんな風に思ってるんですよ。

でも、大きな問題はこの病院の問題なんだけれども、これ何も心配いらない問題でね。

たまたまあの昨日テレビ見てたら、北海道なんか 5 ブロックに分けて現在進行してるのも、要は拠点病院、例えば釧路なら市立病院で、町村がやる仕事、そういうところがやる仕事、あのきちっと区別してね、住み分けして、あのやってる。

例えば子供が気管にピーナツを詰まらせて、そこからヘリコプターで拠点病院に連れて行って、治療を終えたっていうようなの、地方全部でやってます。

で、北海道なんかは 5 ブロックでそういうこの拠点病院を中心に、例えば標茶、弟子屈、その病院は何をやるのかっていう、そこをしっかりとしていかないと、あのずるずるずるずる、これやれ、あれやれ、金ないっていう、確かにまあ町長も 20 年前、5 億ぐらいあれ病院会計から繰り入れしてますよね。

それが大体 5 倍ぐらいになってるんですけど、その病院のあり方も標茶で完結型っていうのが昔のその構想だったと思うけれど、人口がその頃 8,000 か 9,000 人ぐらいいたと思うんですけど、それがどんどん減って、今 6,600 人し

か。とてもじゃないけど、患者は減ってるのに、病床数が変わらないで、その間に。さっき説明あったように、それに対して看護師さんとかきちっと法律で決まって、まあ言いかえると、お客さんのないところに店が開いちゃうんだと思います、従業員たくさん。言葉は悪いですけど。

ですから、これもきちっとしたそのタイムスケジュールの中でこうしていくんだというの中で、全てそうだと思うんだよね。

この書いてあるやつ。これ全部やったらもう素晴らしい町ですよ。ただいつまでやるかわかんないですよ。

7年から11年って書いてんだけど、これはやっぱりこのスパンでは短いだろうなと。まあ、5年区切りで行くのかもしれない。でもその区切る中で、あの、これをどうしていくのかっていうのが全然決まってないんだわ。でも今日はその内容を別に話すような状況には、それは議会とあの理事者側の方のお話で決まって、それを町民に説明してもらえばいいと思うんだけど。

まあその辺のところが少しもったいないかな。

本当にやる気あるならその辺やってもらいたいな。まあでもこうやってあの町の将来について議会と理事者側が真剣に議論してきたってのは評価したいなと思って、以上です。

町長:

はい、意見と、将来の話をいただいたのかなと。

実はこういう形で総額ですね、計画自体をここまで具体的に作って、さらにスケジュールがなかなか見えないかなという話ですけども、ようやくこの形、全体像が一つずつ見えてきたというのが実は正直なところ。今ようやくになってきたのかな。

さらにちょっと言ったように、先ほど言ったように、とりあえず大きいところとして、例えば病院とかやすらぎ園とか牧場は特にその赤字の部分というのは非常に大きな部分を占めるという中で、やはりここもとりあえずいまやってきて、その選択肢として幾つか具体的なものをただ、あの、決めて、こういうふうにするっていうのを決めて、ここに持ってくるのではなくて、町民の皆さんからいろんな形の意見を聞くっていうね。

そういうこともベースに今回っていう形で持ってますので、今回の最初のスタートというか、そういう形で今回来てますので、あの病院についても例えばより具体的なこんな感じで、今、診療所をもっと早くすべきじゃないかとかいう意見は事実、今のことは事実です。

人口規模から言えば他の町村で既に診療所になっているところも、人口よりもさらに6,000人以下というのはもう診療所になっているような人口規模を超えている事実でありますので、現状としては、今、診療所になったとしても、そんなに経費が減らないというか、病床を維持しながらやっていくっていうのが見えていますので、そこからはいろんな形の削減方法をですね、病院の院長と相談しながらですね、今、具体的な案として診療所の外科とか婦人科とか、また救急外来の部分をやっと調整していった方がいいんじゃないかということで、今出てきてますので、これから例えば、ほかにじゃあ何億円増えるよと

かですね、そういう試算をしながら、これからより具体的なものをですね、議会に提案してこうかなと思っていますので、今日はここまでちょっと少し全体像の一部を見せてるっていう風でしかですね、今日お話しできないのはちょっと残念なんですけども、できれば具体的にお話しできるようにしておきますし、こういう方法がある、って話もぜひ細かく教えていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

参加者④:

はい、参加者④といいます。

町の財政がね、大変厳しいから、町民の皆さんに我慢してくれというような説明だと思いますが。

もっとこういう見通しが甘かったとかなんていうか。

そしてね、こういう大変な時に説明するだけでなく、その大きな建物やなんか建てる時、どうしたらいいか、町民の皆さんに相談してほしかったなと思うんですよ。

まあ、自分も今、高齢者事業団に入ってやってますけど、今年も 3、4 人増えたんですね。けれども、今年なんかはもう 1,000 万円以上、町の仕事を減らされたって聞いております。

この高齢者事業団も、まあ私たち働けばお金はもらえるんですけども、なんちゅうのか、つながり、いろいろなガソリンや部品、いろいろ買ってるからスタンドだとか、機械屋だとか、みんなつながりあるんですよ。

そういうのもやっぱり仕事なくなると、そういう人たちも全然収入が減ってくるんですよ。まあ、自分もここ阿歴内は釧路に近いので、ほとんどもう買い物も釧路に行っていたんですけども。

まあ、高齢者事業団に入ってからある程度余裕ができたんで、まあ、標茶にも年間 10 万円以上の買い物をするようになってるんですよ。やっぱりあの事業団の団員はみんなそうだと思います。だから、こういう仕事を減らされると、毎月収入もまあなくなっているような状態なんですよ。

われわれはまあ年金生活だからですね、6 万ぐらいしか入ってこないんですけども、事業団に入ると、それでも相当な収入が、お金が入ってくるからね。

まあ、話によると、今年だったら 1 週間に 4 日か 5 日ないみたいな話を聞かされています。やっぱりこういう説明する前に、もう大きな建物も建てる前に、やっぱりどうしたらいいか説明して欲しかったですね。

町長:

はい。皆さんこれまでの話だったんですけども、今回は大きな事業の前に町民の皆さんに説明していただきたいという話だったんですけども、私どもはそれまでやってきた事業につきましては、町の大きな課題としてずっと課題であったものを、一つずつ時期に合わせて、実は実施をしてきた事業がほとんどであります。

それで、例えば、今までやってきている分で一番大きな財政負担になっているのは、例えば標茶中学校の改修とか、その前、ちょっと前から始まったもの

は、クリーンセンターの改修とかですね、その後、給食共同調理場の改修とかですね、その後かや沼の改修とかですね、そういったものを順番にですね、皆さんからかや沼についてもですね、いろいろなご意見があるの私も十分承知なんですけれども、多くの皆さんが、あの一振興公社の経営を引き継いだときにですね、経営状況が非常に良くないので、私として、これ以上経営をするのが非常に難しい、売り上げが赤字が増える状況でありましたので、倒産せざるを得ない中で倒産をして、皆さんにお話をしたところ、一日も早く再開していただきたいというのが実は多くの意見でした。

それに合わせてですね、やはりこのような施設ではなくてですね、しっかりと外から来ていただける施設を改修すべきだということでですね、皆さんのところも、実際に設計した方に説明に来ていただいて、説明会を開いたりですね、そういったことをやりながら、実はやってきたつもりであります。

決してその何も相談しないということではありませんし、そういったことでやってきました。

それから、公共事業、今回の分については、決して高齢者事業団の事業額を実はあの減らしているわけじゃなくてですね、民間事業者のですね、公共事業も実はかなり厳しく査定させていただいてですね、あの高齢者事業団だけをですね、削減したということだけではないということでご理解いただきたいと思いますし、今回、3月に新年度予算、一度否決されました。

その理由は、公共事業削減しすぎだということで、ご批判いただいてですね。さらに1億400万の公共事業を追加して通していただいたという経過もありましたので、決して高齢者事業団だけではなくて、町内の多くの事業、公共事業を受注している町内の事業者の皆さんもですね、同じような形で今回、厳しい状況の中で頑張っているというのか、そんな状況でありますので、ただ、高齢者事業団の事業につきましては、これまでと同じように、高齢者事業団の趣旨を理解した上で入札とかいう形でやっているわけではなくてですね、随意契約でですね、これまで通り町の仕事も少し減っている話もありますけれども、同じような形で仕事をお願いしているということでやっていますので、そこだけはですね、ご理解いただきたいなというふうに思います。

よろしくお願いします。もし不足な点があったら、ご質問してください。

参加者⑤:

参加者⑤です。今まで聞いてて、財政が厳しいっていう話があるんですけど、あの町バスとスクールバスのことなんですけど、あの私、町内で仕事することがあるんで、よく見かけるんですけども、スクールバスが通ったあとに町バスが走ってるっていう路線もありますよね。

ただ、町バス見たら誰も乗ってないんですよ。空で路線だからって走ってるんですよ。かなり無駄だと思うんですよ。確かに業者委託だからね。

全部それが、っていう話にはならないと思うんですけど、やっぱりこの辺、まあ目的が違うっていうのはわかるんです。町バスは一応料金も発生しますしね。スクールバスは料金発生するわけではなくて、使用目的も違うしっていうのもあるんですけど、少子化高齢化ってこともあって子供の数も減ってますよ

ね。で、マイクロバスに児童が来て、一人だけの子供とかさ、そういうのもよく見かけます。で、それで運転手と車両の経費等を考えた時に、かなり無駄が大きいんじゃないかなと。

教育長もおられるから言ってるんですけど、その辺を町バスとスクールバス、どちらかをどうっていうわけじゃないんだけど、どこかでその辺を考えて削減できるものは削減してやっていかないと、無駄にただ乗せながら走ってます。じゃあそれは無駄な経費にしかならないんで。

生徒に対して車、マイクロバス 1 台あってもちょっとおかしい話で、だからその辺を全体を見直して、業者委託だからということもあると思うんですけど、それに全部含めて考えたときに、あの車の台数を減らすこともできるし、車の台数を減らすってことは運転手の人件費も減るし、それに伴って車の価格っていうのは燃油代と保管経費を全部引きますよね。

だからその辺一回、統一で考えて、あの減らせるところは減らした方がいいと思うんですよ。無駄に、だって人乗ってないのに走ってますよ。

じゃあ、それは無駄な経費にしかならないんで。

企画財政課長:

ご指摘のとおりだと思います。

町バス、スクールバス、それから町で給食の配送、運転業務全部を見直してですね、例えば今もですね、給食の配送でいろんなものを持っていってもらったりもしてる一方で、やはりこうしていただいたスクールバスと今までは別で色々それぞれ運行してたんですけども、それを 1 枚に重ね合わせ、やっぱり重なってる場所、それから今言ったそこまでいかななくてもいいんじゃないかなとか。それから大きな車じゃなくてもいいんじゃないかと。

あとは今よく言われているデマンド型。予約を取って行く、通常は行かないとか、そういったですね、いわゆる経費削減とそれから車両の大きさ含めて、一番どういった交通体系でやっぱり町民の皆さんが利用していただけるのか、どんな形がいいだろうか。

本当にご指摘になった通り、やっぱりカラの、空気を運ぶということだけは避けたいというふうに思ってますし、やっぱりその大きさも含めてですね、経費の削減にもつながりますので、例えばご指摘いただいたこと通りだと思ってますので。

それに向けては、私どもも部署を飛び越えて、今までの教育委員会、町だからということではなくて、町全体でどうすればいいかっていうのを検討しております。

参加者⑤:

税金が出てるとこ一緒に、こっちは違うから、っていう話にはならないと思う。

企画財政課長:

私たちはもうずっとこのご指摘のとおり、私どもが研究して、できるだけ早

くですね、それを統一して、一方を短くするだとか、そういった無駄な経費にならないように、こうやって毎日話し合って、早期にそれを表現させていただきたいというふうに思っておりますので、ご理解いただければ幸いです。お願いします。

副町長:

そういうことでは一部すでに大きいバスから小さなバスの置き換えや、それを実施している路線があったりとか、それから課長が言ったデマンド化を取り入れているところとか、手掛けるところはやってるんですけども、大きなところで、スクールの路線・・・

参加者⑤:

誰も乗ってないでただ走ってるっていうのは、うん、って思うよ。

それが町民みんな見てるからさ。それ無駄な経費でしょ。って話になっちゃうから。その辺を両方でスクールバスと統一できて、同じ路線になるんだったら、時間割をちょっと変更するなりなんなりして。

一方を1台にしちゃえば1台減って済むんだから、その辺もちょっと総合的に考えてやっていかないと。

財政赤字だ赤字だ、ってしてもそれに無駄に経費どんどんどんどん出て、毎年出てきてるんだから、それが削減されないとならやっぱり皆さん税金払っている側が納得されないと思います。

町長:

ありがとうございます。

ぜひ今やってるんですけど、さらに研究を進めてまいります。

参加者①:

ちょっと聞きたいんだけど、町の社宅もかなり空いてますよね。公住。入りたくても入れないっていう人もいたみたいだけど。

なぜあんなにか空いているのに貸せないのかなと思います。ただの空き家にしちゃうただの無駄なこともないやって。

副町長:

そこも今作業してるんですけども、町営住宅に建設の時の条件というかで所得の関係があってですね、所得がたくさんある人を入れないとか、高い家賃になってしまうとか色々その辺があるんですね。

なかなかあの更にそれに人口減少も加わってると思うんですけども、空き家多くなってきている。

で、その制限を外すという手法もあって、外してそして活用していこうと考えを持っています。

例えば、それこそ職員、役場の職員住宅がもうかなり老朽化しているので、町の職員を入れようだとか、あるいは町内の民間企業で社宅を構えるなんてち

よっとなというところで、会社で使ってもらうとか、そういう柔軟な発想で資源を活用するということを今やっているところであります。

参加者①:

それで、まあ行くまでに何年かかるんだかしらないけど。

おそらく行政というのはえらい時間かかるわけだから、それはやっぱり速やかにやるようにきっちと体制を見直してやっていくことが前提ではないのかなと気はするんだよね。全部規程だ、規程だって。

大体あの社宅がないからって結構役場もそうだけど、田舎とかさ、釧路市とかあっちこっちから通ってる人いるよね。

何パーセントか知らないけどもさ。

これだって税金、全部他の地域に行き、町には入ってこないんだよな。お金を出すけども、税金は回収できないって、ね。

ある程度やっぱり話し合いして、こっちに来てもらえるような方法を一つの方法として考えていかなきゃ。

今は強制できないということは確かなんだけど、それでもやっぱりね、話し合いというのが大事なのかなと思います。

その辺も考えて少しでも。やっぱり経済的な面でも。

やっぱりスピードを持ってやらないといけないね。

どんどんどんどん財政難になっていくということなんで、やっぱりスピードを持ってやらないとね、ずっとこういう形で解決なんかってのはならないのかなと思います。その辺もやっぱりもうちょっと検討してほしいなと思います。

町長:

はい。公住の点は、もっとスピード出してやらさせていただきますけど、あとはまあ、参加者①さんが言ったように職員の方も標茶に住まないで、町外から通っている人がいるってことは、私も非常に頭が痛いです。

私も職員の採用の面接のときに必ず標茶町に住んでいただけますかって必ず確認はしてます。ただ、私にも強制力はありませんから。

参加者①:

できないからね。

ご本人の意思表示に間違いがないっていうのが、基本的にはですね。

町長:

非常に残念ですし、まして今ね、災害が起きた時にね、釧路から住んでいる方が来た時に、本当に 1 時間もかかってね、たどり着く、まあたどり着ければいいですけども、道路が被害があって、役場本体に通えない、対応ができないとかっていうことも実はあり得るかなというふうに思ってますので、そういうことを喋りながらですね、住んでいただくように努力したい、そんなふうに思ってます。町民の皆さんから言ってもらった方がいいのかな、と思います。

参加者①:

だけど通勤費って出るんだよな。

それに応じて必要な、キロ40円なら40円ってものを出してるわけはずなんだよな。それも考えるとだよな。

給料とは別に、通勤費って出すんだから、このへんもちよっとやっぱりね、考える必要があるのかなと思います。

通うのがダメだとは言わないけどさ、そのへんもゆるくなくなったら、やっぱりある程度理解しながらやって、じゃないのかなと思います。

(5) 開会あいさつ

(6) 開会 午後8時30分